

# JAITI 13

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

JAITIとは、「財団法人日本農業研修場協力団」の英文、  
Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation  
の略文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を  
生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、  
「生きる糧」の食料を安定確保することで、生活の中に  
基礎的な教育と公衆衛生に目を向ける命とをもち、健康  
で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活  
動が展開されています。

発行 (財)日本農業研修場協力団  
住所 〒386-06 長野県小県郡武石村沖456  
TEL.0268-85-3465 FAX.0268-85-3583

## 今日のジャイチ

### ◆第五期の報告

一九九六年四月～一九九七年三月間、以下の事業を実施。収支報告と併せてご覧下さい。

・ネパールへの支援事業  
ジャイチネパール事務局を基点にして、農業技術者を派遣を、国際農林業協力協会より助成を受け、六ヶ月間、残りの期間は本人のボランティアで通年を、評議員の松浦浩氏が担当。

カカニ農場運営に関する詳細は、三面に掲載しました。松浦氏の指導内容を掲載下さい。

シンパンジャン学校は、事業の拡がりと共に費用が増える一方、金利低下の影響で基金運営も少なく、政府系助成金の減少もあり、厳しい財政状況が、当分続く予定です。

従って、今年度の施設作りは、教室一棟で、他は一切中止し、運営費も、日本ネパール双方で、一円、一ルピー(ネパールの通貨単位で約二円です)の更なる節約を心掛けて、継続維持するための、財政体力温存を計る所存です。

どうぞ、田に倍しての、ご支援と、支援者の拡がり、

設置前は、給食用食費、六年生用教室、学校敷地内の排水路工事の一部を実施。生徒は、今年二月より、五年五クラス合計百五十名在校しています。教室建設費用の全額を、津市、三重経済専門学校々長安井持さんと寄附により、食堂建設費、教員給料、生徒給食費、教材費の一部に、郵政省国際ボランティア助成金に係る寄附金の交付を受けました。

・日本国内事業  
活動を維持するため、基金の増殖の募金事業を、この誌面を通して、各地のボランティア参加による資金の創出に、ご協力下さいませよう、ここに改めてお願い申し上げます。

## 継続にご協力を

### 財日本農業研修場協力団収支報告

1996年4月～1997年3月 (単位千円)

#### 1. 収入の部

①基本財産運用収入	792
②支援者寄附金	18,869
③公的機関よりの寄附金・助成金・支援費	14,305
④財団設立者寄附金	3,428
⑤その他の収入	4
⑥前期よりの繰越金	2,785
合計	40,083

#### 2. 支出の部

①国内事業費	14,706
②国外事業費	18,398
③国内事務局運営費	4,922
④その他の支出	198
合計	38,224

#### 3. 次期への繰越金

合計	1,859
----	-------

#### 4. 収支報告に関する留意事項

- 収入の部②支援者寄附金は754件あった内、維持費と使途指定事業費の金額を計上。
- 上記収支の他、「ジャイチ基金」への指定寄附金及び、無指定寄附金の半分3,080千円を基金として積立。
- 収入の部の③公的機関は、郵政省国際ボランティア助成金に係る寄附金・社団法人国際農林業協力協会専門派遣支援事業費の2件合計額を計上。

### ◆第六期の予定

一九九七年四月より、一九九八年三月迄の事業を、次のように予定しています。計百八十名になります。

・ネパールへの支援事業  
カカニ農場は、今年度も国際農林業協力協会の助成と、本人の奉仕を受けて、松浦浩氏に、通年指導をお願いいたします。

シンパンジャン学校は、教室一棟の建設費、給食費、教員給料、教材費、保健費等運営費の一部に、郵政省国際ボランティア助成金の寄附金助成を受け実施。九八年二月、第六期生三十名を迎えて、生徒数は六学年合計百八十名になります。

・日本国内事業  
武石の事務局を拠点に、募金、調査研究、現地視察の旅企画、奨学金里親と子供の連絡業務、各種情報提供、機関誌の発行、各地のパザール・展示会への参加等を、支援者の方々のボランティア参加を仰いで進めます。ご協力下さい。(事務局 菊池)



▲カカニ農場で今年5月に産まれた仔牛とその母牛(水牛)

### ネパール情報

ネパールへの海外からの投資事情案内、その二。  
◆投資許可範囲  
以下の分野を除いて、全てに許可されます。

- (A) 住宅産業、諸々のサービス業(例えば娯楽・美容・洋服屋、自動車教習所等)
- (B) 武器・弾薬・火薬・爆発物の製造販売、放射能物質関連産業、建設業を除く不動産業、映画産業、有価証券及び銀行紙幣の印刷と硬貨製造。
- (C) 小売業、旅行代理店、トレッキング取扱業、水運送業、ポニートレッキング業、乗馬場経営、煙草と酒類の製造販売(90%以上の輸入品販売は除く)、国内輸送業、原子力利用、旅行宿泊施設業、家畜飼育業、漁業、養蚕業、経営・会計・技術・法務等諸サービスに関するコンサルト業。

◆改善された手続き要点  
(1) 技術移転・小規模の業界でも可能。  
(2) 国有化なしにHMGNは、政策上業界単位での国有化はないと明言した。  
(3) 価格の統制→工業製品の価格の決定・管理に、政府は干渉しない。

まだ数項目ありますが、次号でお知らせします。持てない方は、問い合わせを。(ジャイチネパール、マン・B・シュレスタ)  
(文責・菊池)



# させていたいただいた 奉仕のよろこび

安井 将

奉仕する動機は、四十二年間学校経営者として、教育者として今日に至ったが、これで良いのかと疑問を持ち、真の教育者は発展途上国の子供にも教育と命の尊厳、健康を守ることこそ教育者としての義務、責務ではないかとの思いで訪問し、左記のような現状を見聞してきた。

三月に準備もそこそこ現地に飛んだ。着いてすぐ民間非営利団体、財団法人日本農業研修場協力団の活動を知ることができた。この団体が奉仕しているシンパンジャンの学校を訪問することにした。

タクシーをチャーターし、村まで九十キロの道程を六時間位かかって移動した。車窓から見える物すべて日本で調べた資料がすべて覆され、まさに「百聞は一見に如かず」の諺とはこのことを言うのかと思う程であった。

五年の先生の下で児童が学校生活を楽しく送っている。児童に話を聞くと学校がとても楽しくて仕方がないと言った。体全体で喜びをあらわしての笑顔笑顔だ。

私達が一寸した工夫と節約をすることによって如何に途上国の人々に役に立つかを知ると同時に、この行動が私達の取り組みのボランティア活動の原点のように思われた。そして校長先生は「現在この学校には一年生から五年生迄しか教室がなく、十年生迄の教室もあって十年生で卒業させてあげたい」と言う希望を述べられた。

私は、この話を聞きながら、「人間と人間とのふれあい」「顔の見える援助」として喜びを共感し、相手の立場にたった行動をすると言った。「心機」が一番喜ばれると思われ、先ず私が六年生用教室を建てて、子供達に安心感を与えることが教育者としての責務だと心から感じ、必ず実行すること約束し、平成九年三月待

この子供達が永久に幸福であってほしいと願わずにはいられなく、二十一世紀の未来をどのように創造するかの期待は大きく膨らんだ。今後とも私の出来る限り、奉仕をさせていただくことを強く心に留めている。

(三重県津市)



▲シンパンジャン学校教室棟全景

ネパール国という「ヒマラヤの国」と考えられ登山とトレッキングで知られているが、果たしてそうなのであろうか。習慣や風俗の違う国の現状を知ることにも日本人として、私個人としても必要ではないかと思いい、前もって調べてみた。

すると六才から十四才の子供の六十%が家計を助けるために働いている。又成人女性で読み書きの出来る人は十三%と言われている。高中学校に進学できる女の子は僅か十七%にすぎない。

このような現状がわかるにつれて、教育者として長年蓄積してきた知識・経験を私なりに何か奉仕の精神でお役に立てればとの気持ちで、平成八年

学校に到着して、第一印象は子供たちの目が輝いていたことであつた。そうした笑顔で迎えてくれた子供達と会って、私の心は安らぎを感じた。

私共には、お父さんと呼んでくれる子が三人、お爺さんと呼んでくれる子が一人いる。二人は我々の息子達、一人は一年間一緒に生活したオーストラリア人のジュリー、残りの一人がネパールの孫娘、ユキ・シエルバだ。

八年前息子達が就職して地方の工場勤務になり、我が家は文字通り空き巣になった。その時東京都がホー

ムステイの家を探しに苦労しているとき、男の子は数人いたから、女の子なら応募して紹介されたのがジュリーだった。そのジュリーも帰国して、私も定年退職した九四年、何かしようかと思つたが、もう家内も年々ホームステイはきついついと言つた。半分は別れがつかないと言つたのが本音だろう。こんな時、家内のお友達で、ネパールでボランティア活動をしていらつしやる近藤さんが里親をしたらとジュリーを紹介して下さつた。それでジュリーから紹介されたのがユキちゃんだ。この時、彼女は五才だった。何回かの文通後、ユキちゃんのお父さんが息子より若い事が分かってから、ユキちゃんは「グラン・マ・パ」と書いてくる。

## 里親だより

### 「孫娘ユキちゃん」

宮坂 正昭



ユキちゃん(中央八才)の誕生日

(東京都中野区)



## 今、 カカニ農場では

今年の十一月以降乾季中にと、農作業の合間を利用して、以前から考えていた畑の整備事業を思い切った行いましたが、なかなか予定どおり進まず、おまけに四月はかつてない天候不順で降雨日も多く、五月中旬になってやっと目安がついたという状態でした。

下の村へ通じている道路の変更、荒れや道路を整備して畑への転換等人力のみによる作業でしたので、土の切崩し、土中の大きな石を取り除くにも、まず掘り出してからハンマーで運べる程度まで割ってから、石垣積みを利用したり、他の場所への搬出と日数を多く要する作業でした。併せてその間、農場のリーター

の転換問題や休暇を取る者も多く、土中の石も想像以上に多く、四月に入って中止も一時考えました。しかし、中止では後で後悔する

事が目に見えていたもので、作業員も増やし休日にも一部の人が出てもらい、計画どおりに進ませませんでした。何とかなる前の作付けに間に合わせたと言

うのが実情でした。

天候の方も「別表」のように、一月下旬から低温で推移したため、草は不作で一部の気象条件の良い場所の人達のみが、連続して出荷してありました。サツマイモの苗床も三月初めに、種芋を植え込んだのですが、発芽・生育ともに悪く、例年ですと五月中旬には第一回目の植付けを行なえたのですが、今年はいつになる畑の整備作業や草の採苗作業やらと心配しております。

そのうえ、四月二十二日には大量の雹が降り、せっかく運れながらも収穫を始めた草は、果実や葉をたたき落とされて全滅に近い状態

となってしまいました。その他、定植をすませたインゲンも大きな被害を受けてしまい、急いで追肥も施しましたが、今後の生育が心配です。キヤベツ・カリフラワー・ブロッコリー・コ

ールラビ等は、まだ苗床で寒冷沙をかぶせてあります

たので、雹の被害はありませんでしたが、低温のため生育が悪くキヤベツとコールラビは四月下旬になってようやく定植することができました。しかし、カリフラワーとブロッコリーは、播種後六十日を経過しても定植するまでには育たず、畑の整備作業や草の採苗作業を優先させるため、残念



▲4月22日の降雹(上)と雹害を受けた善畑(下)

## 畑の中の大きな石をハンマーで割ってとり除く作業



1月～5月の日毎最低・最高平均気温及び降雨量の比較

月	旬	1997年			1996年		
		最低平均	最高平均	降雨量	最低平均	最高平均	降雨量
1	上	3.6	10.4	-	3.7	10.2	1.7
	中	2.2	9.5	15.9	2.4	8.5	61.0
	下	1.8	8.9	8.3	3.0	10.9	-
2	上	1.6	8.6	-	5.4	11.9	-
	中	3.1	11.6	5.8	5.2	12.0	5.9
	下	4.2	11.1	7.7	6.0	12.6	26.0
3	上	7.1	12.6	-	8.3	15.2	12.8
	中	9.3	16.2	1.7	11.5	17.7	-
	下	7.5	15.5	17.1	10.6	17.2	5.1
4	上	7.6	14.4	61.6	10.1	19.5	3.2
	中	10.7	16.7	36.3	13.6	22.2	1.4
	下	11.9	17.4	77.9	13.1	20.4	11.9
5	上	12.4	19.3	23.7	14.9	21.4	30.3
	中				14.0	22.7	22.3
	下				15.9	23.3	69.2

ながら低温のため花芽分化の心配もありましたので、定植はあきらめてしまいました。天候異変は農薬用資材の乏しいネパールでは、致命的なダメージを受けて

しまいます。しかし、これも自然相手の農業では仕方がないと、現在ではあきらめざるを得ません。この天候異変の被害を少なくするために、費用がかかっても施設栽培を考える事が必要なのかと確信しました。

畑の整備事業の結果、広く日当たりの良い畑ができましたが、今まで土壌改良のための施用していた機銃の入手ができず、畑土をどのようにして改良していくか悩んでいます。堆肥も増設しましたが不足です。

連肥の原材料も余りありませんので、牛の糞に豚・山羊・ニワトリ等の飼育も検

討しておりますが、そのための施設も必要となつてしま

いますし、人手も要しますので大変です。

毒の販売も五月上旬で一旦終了しましたが、現在

(五月中旬)でも日当たりが良く暖かい所の人には、一部個人で出荷しております。山間部のための農場を中心に数キロメートルの範囲内の栽培ですが、気象条件や土壌的にも大きな差があり、栽培者も現在では三十名程度ですが、今後増加が見込まれますし、個々の面積も増える事と思われれます。今までの一元集荷・販売にも問題が発生して来ていますので、元研究生等を中心に数ブロックに分けての集荷・販売を検討し始めました。今後、相談をかさねて、定植前の八月中旬ごろまでに結論を出したいと思つて

や大根の播種等忙しい時期となりませんが、天候によってはこれからの作業が順調に行えるかどうか心配なところ。また、搾乳用と堆肥生産のため飼養している水牛にも五月四日に仔牛が生まれました。

畑の整備事業もほぼ一段落しましたので、今後は灌漑・排水の整備と土作りに入力を入れて行く予定です。最後に、社団法人国際農林業協力協会(AICAF)始め、ジャイチの活動にたいしてご支援いただいたりありがとうございます。農業者 松浦 浩

整備のほぼ完成した畑





# 新しい地域に、支部が 生まれることを願って

栗田 三津雄



本物だと確信し、今の自分  
に出来ることをさせて頂い  
たいと思いましたが、その結果、  
金銭的支援拡大のために私  
の知人へ会報を送付する仕  
事を昨秋から始めました。

支援依頼をして、反応の  
ある人、ない人が当然で  
きます。反応のない人の方  
が断然多く、当初は、反応  
のない人に対してなぜ別  
てくれないのかという気持  
を抱きました。しばらく  
して、反応がないのが通常  
であるということが判り、  
反応して支援して頂いた方  
に感謝の気持ちをもちつた  
ことが大事であると気付きま  
した。成長です。

一日平均二通の会報送付  
を目標に頑張ってきました  
が、そろそろ知人の在庫  
(失礼な言い方ですが)も  
底をついてきました。飲み  
屋に行くときも、何かの会  
合に参加するときも会報三  
点セット(会報、封筒、振  
込用紙)を数部持ち歩き、  
機会を見つけて支援依頼を  
しています。

前回の会報の封筒の裏面に  
記されている支援者一覽で  
前々回に比べ、滋賀県内の  
人数が大幅に増えたことに  
内心満足しているところで  
すが、この中で水鏡的な支  
援者となつて頂ける方がど  
れだけおられるか不安もあ  
ります。

完結で「滋賀支部長」と  
名乗ったところ、それまた  
冗談で認定していただきま  
した。滋賀県だけでなく他  
にもたくさん支部が出来  
て、武石村で支部会議が出  
来ることを楽しみにしてい  
ます。(滋賀県野洲町)

ネパールの農場と学校  
訪問の旅参加者募集  
毎年好評いただいている  
旅も、今年で八回目を迎え  
ました。

募集要項ご希望の方、お  
問合せの方、ジャイチ事務  
所までご連絡下さい。

●日程 十一月八日(出)  
十一月十六日(回) 八泊九日  
●旅費 成田、名古屋、関  
西、福岡の各空港から香港  
空港へ集合。同日カトマン  
ドゥ着。

## お知らせ

77国協協力フェスティバル  
が十月四日(土)五日(日)に  
日比谷公園にて開催されま  
す。国際協力に携わる機関  
が、それぞれの活動を紹介  
するものです。ジャイチも  
皆様にささえられて6回目  
の参加を致します。

ドゥ着。

ボカライナトワン国立公  
園・シンパンジャン学校・  
カトマンドゥ・カカニ農場  
・カトマンドゥと移動して  
十五日午前発で香港へ。十  
六日午前香港より、各日本  
の空港へ。

●費用 二十九万円。全て  
の旅費、宿泊費、食事が  
含まれています。参加者が  
この他に用意する費用は、  
空港往復の日本国内交通費  
と、海外旅行傷害保険料だ  
けです。

●申込期限  
八月二十五日(日)  
但し、定員になり次第ノ切  
ります。

●申し込み先  
〒三八六〇五  
長野県小県郡武石村中  
四五六  
ジャイチ事務局 後田  
T E L 〇二六八一  
八五―三四六五  
F A X 〇二六八一  
八五―三五八三



## ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何れも心に留めて下さり、感謝申し上げます。運送されている財源その他について説明を致します。ご協力をお願い申し上げます。

1. ジャイチ基金――財団法人ジャイチの基本的財源の確保  
基金を信託銀行・国債等で運用し、その果実(利息)でジャイチ活動の基本部分を確保することを目的としています。果樹のようなものです。  
・基金が大きくなればなるほどジャイチの財源が安定します。  
・基金へ寄附して頂いたお金は何十年何百年とまでジャイチと共に目標の魂が残ります。
2. ジャイチ維持費――ジャイチの運営維持費  
基金から生み出される財源では只今のところ活動に不足を来します。そこで今必要な活動に使わせて頂く目的のものです。一年草のような春播き秋に収穫して終わります。・当分の間、この維持費はジャイチの活動に欠かせない費用です。
3. ジャイチ事業費  
新たに大きい費用のかかる事業を計画した時にその応援費用として確保することを目的としています。  
・通常の予算(ジャイチ基金の果実、ジャイチ維持費で組まれる)では賅いきれない時に臨時に集める目的の寄附金です。  
必要な時に皆様にお願いのお知らせをさせていただきます。

ジャイチでは上の3つのような形で寄附をお願いしております。何にご寄附下さったのか、お取戻きませんが、もしも特に指定のない場合は基金と維持費に半分ずつ使わせて頂きますのでご了承下さい。

振込先 番号 { 郵便振替 00510-4-65434  
銀行振込 八十二銀行丸子支店(前) 430577  
口座名 財団法人日本農業研修協力団  
住 所 〒306-05 長野県小県郡武石村中455  
電 話 0268-85-3455 F A X 0268-85-3583

尚、金額に関しては規定がございませんので、お独りお独りで自分でお決め下さいますようお願い申し上げます。(例えば、収入の1%を、小遣の1%を、的々考えは如何でしょうか。)

## 物故者のお知らせ

支援者のなかで、当方で把握している物故者を掲載致します。

ご冥福を祈りますと共に、感謝申し上げます。

鈴木 存 一九九一年一月  
(福島県いわき市)

栗原 克 一九九一年十二月  
(千葉県八千代市)

河田栄一 一九九三年六月  
(長野県上田市)

沢田三郎 一九九四年八月  
(長野県諏訪市)

佐藤 修 一九九四年十一月  
(茨城県水戸市)

小林山郎 一九九五年  
(長野県上田市)

## 編集後記

毎々の松浦さんの誠実な農場報告を楽しみにしている読者のひとりです。室内の生活に埋れ、忘れかけていた「自然への畏敬と感謝の念」を思い出しました。日本では農業も工業化されつつあり、冬は自然を排除してゆく、冬のメロンを食べるときは、その重油の味と炭酸ガスのにおいをおかみしめてほしいものです。本号は、新たな篤志ある方の寄附によって郵送させていただきます。

(武石村 題)